

ぶらネットこまき

(古牧地区住民自治協議会広報紙)



第47号

古牧だより通算141号

第25回 ふるさとふれあい教室

32チーム
464人参加

10月14日(日)第25回ふるさとふれあい教室が、三陽中学校を会場に開催されました。

ウォークラリーは参加者、子供187人、大人277人の合計464人、32チームで競い合いました。

当日は穏やかな秋空の下、長池神社北側入口を出発地点に、西尾張部・南高田・南長池地区内の約3kmのコースで行われ、各チェックポイントを通過しながら各地区にまつわるクイズに挑戦し、新聞紙相撲ゲーム、ジャンケンゲームを楽しみました。

クイズでは難問も出題されており、子供も大人も一緒になって答えを解きました。

新聞紙相撲ゲームでは、女の子が少し恥らいながら一生懸命になっている様子が印象的でした。



昼食のカレーは、さわやかな汗を流した後の空腹の中で、美味しさも一段と増し、おかわりをしている姿も見受けられました。

また、午後の部のふれあいレクリエーションも子供たちは、無邪気になってゲームで楽しみ有意義な一日となりました。

(公民館部)



ウォークラリー成績

- 👑 優勝 西尾張部Cチーム
- 👑 2位 五分一Bチーム
- 👑 3位 南長池Bチーム



第25回 希望の旅 開催

毎年恒例の身障者等の「出会い・ふれあい」の集い「希望の旅」を、10月5日（金）に須坂市の湯っ蔵んどで、72名の大勢の皆さんが参加され、盛大に開催されました。



丸山副部長さんの司会で始まり、小林福祉部会長さんからあいさつをいただき、そのあと入浴や歓談等、自由に時間を過ごしました。



午後は傘木部長の進行で、ビンゴゲーム・カラオケ等食事をしながら楽しい時間を過ごしました。

参加された皆さんは、年に一度のこの集いを楽しみにしているということです。

（福祉健康部）



自主防災連絡会 視察研修

自主防災連絡会では、10月21日川端区の防災訓練を視察研修しました。

訓練は「長野市に大地震が発生し、大きな災害が生じた」との想定のもとに行われ、対策本部設置訓練、各班出動準備訓練、避難誘導訓練、初期消火・土のう積み訓練、救出救護訓練、給食給水訓練が行われました。

「自分たちの街は、自分たちで守る」ことを目的に、150名を超える皆さんが参加され、真剣に取り組んでいました。



視察研修に参加してみて思ったことは、防災組織に各種団体を組み入れ、その団体の目的に合った役割を分担させ、そして訓練に参加して良かったと思われる内容にすることが大切だと思いました。（総務部）



ボランティア活動に参加しませんか！！

11月1日付け回覧でご案内のとおり、古牧地区ボランティアセンターでは、コミュニティ支援活動と地域支え合い活動のボランティア希望者を募集しています。応募方法等は各区の福祉推進員にお申し出ください。地域の皆さんのお力をお待ちしています。

《問い合わせ先》 ボランティアセンター 244-8159

ごみ分別強調月間 市職員による巡回指導

本年度は「可燃ごみに混入する資源物の分別」と「プラごみの分別」を重点に、10月12日（金）の早朝、平林区の4ヶ所の集積所を市職員3名と環境美化部員他で巡回指導を行いました。

巡回指導の結果、①「可燃ごみ」に資源物の紙の混入が多い。②「プラスチック製容器包装」の汚れが多く入っている。との指摘がありました。



地区住民の皆様に関りある資源物の大切さと分別の必要性、ごみの分け方・出し方のルール順守にご協力をお願いします。

（環境美化部）

環境美化部研修 ごみ処理現場を見る



環境美化部は、10月26日（金）に長野市清掃センターの施設見学を行いました。

清掃センターは1年間に、可燃物9万トン、不燃物5千トン、プラごみ他2万

2千トンを処理しています。

ごみの処理は、可燃物は焼却炉で燃焼し、その廃熱利用でサンマリンながののプールに温水を供給しています。また、プラスチック・ビン・缶等はリサイクル処理をしています。

資源物のリサイクルは、資源の枯渇や自然環境破壊等を考えると、たいへん大切なことです。資源循環型社会の構築のために、ごみ出しの仕分け徹底とリサイクル製品等の購入推進は、やがて環境を守ることに繋がることを実感しました。

（環境美化部）

中央消防署東部分署が完成 11月1日業務がスタート！

長野市消防団第6分団 青木 敬一

エムウェーブ西側の南長池区東部工業団地内に長野市消防局中央消防署東部分署が開署し、11月1日より業務を開始しました。

11月4日（日）には、長野市議会議長さんをはじめ、古牧地区住民自治協議会会長さん、古牧地区内の区長さん他総勢100数名の方々が集まり、盛大に開署式が行われました。

開署式のセレモニーでは、車両火災を想定した化学消火液を積んだ新しい消防車両

（CAFS）による消火訓練、救援救護訓練が分署職員により行われました。

東部分署は、古牧・大豆島・朝陽の3地区（人口5万3千人、2万1千世帯）を受け持ち、消防ポンプ車・高規格救急車・化学消防車・大型水槽車（積載水10トン）と、23名の署員を配備しています。

災害による被害の軽減、ならびに救命率のアップを目的に、消防隊と救急隊が通報を受けてから現場に到着するまでの時間が短縮され、さまざまな災害や救急要請に対応できるようになります。

我々消防団も東部分署と連携を密にして、災害に対応していきたいと思ひます。



南長池

歴史を伝える 裾花川舟着き場跡の碑

南長池区長 長田本次郎

私たちの南長池区は、古牧地区の最も南東部に位置し、世帯数が約500戸、事業所数が約90社で、区南東部には木工団地や第二東部工業団地があり、店舗や製造業等多くの事業所が活発な事業活動を展開し、北西部には少なくなったとはいえ、水田が多く残る静かな住宅地の広がる町です。

区の南部を東西に走る、県道長野・須坂インター線歩道のつつじ植栽の中に、「舟着き場跡」の石碑が建っています。注意して見なければ見過ごしてしまうような小さな碑です。

その昔、この辺りには裾花川が流れており、ここには渡し舟の舟着き場があったと伝えられています。またそこには、しばらく前まで



一本の「ひむろ」の老木がそびえており、区民は「一本松」と称して親しみ、自慢でもありました。この木は渡しの舟をつないだと伝えられています。

お知らせ

荒屋区の区長を退任された矢澤速久氏は、都合により住自協の副会長・総務部会長の職を辞任されました。

長年ご苦勞をいただきましたことに感謝申し上げます。

その木も長野冬季オリンピックの際、道路拡幅のため平成9年に切り倒されました。

小さな「舟着き場跡」の石碑を見るたびに、昔この



辺りを人々が、旅の姿や農作業の姿で往来した風景がしのべれます。

しゃばえんびつ



霜月

今年も残暑厳しく、暑い日が続きましたが、十一月に入り寒さも一段と増し、秋の深まりを感じる季節となりました。

十一月は霜月とも言いますが、これからは霜の降りる日も多くなります。

自然は、私たちに様々なかたちで季節の変わりりと、備えを教えてくれています。

今年五月には、古牧地区において痛ましい死亡事故が発生し、また七月には、集中豪雨による水害により、各御家庭が被害に遭われました。

人それぞれの共通の願いは、平穏な日々を送れるのが第一と考えます。

これから年末にかけて何かとせわしくなりますが、事故等十分注意して、二十五年度に備えて充実した月にしたいたいです。

(倉島 孝紀)

古牧地区の世帯数と人口

24年10月1日現在

10,631 世帯

26,200 人

(男 12,929人 女 13,271人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会
- 発行者 湯澤 角雄
- 編集 ぶらネットこまき編集委員会
- 印刷 ㈱小池印刷